

## 取組の目的・背景

観光都市として有名になった小樽ですが、日帰りの観光客が多く、冬には観光客が減少するといった課題を抱えていました。このことから、市民有志が降り積もる雪と歴史的な街並みといった地域資源を活用し、冬季観光客の増加と地域経済の活性化を目指して1999年2月に始めたイベントが「小樽雪あかりの路」です。

## 取組の内容

厳寒の2月、メイン会場の運河会場、手宮線会場、朝里川温泉会場をはじめ、市内各地において、市民、商店街、学校、企業、各種団体、海外ボランティアなどがスノーキャンドルやオブジェを製作、イベント期間中は延べ12万本のロウソクにあかりを灯し、小樽のまちを幻想的なあかりで優しく包み込みます。

## 取組の成果

イベント期間中の来場者数が50万人を超えた年もあり、冬季観光や地域経済に大きく貢献するイベントに成長しました。また、町内会や学校単位で参加する地域住民が増えるなど、地域コミュニティーの復活にも一役買っており、国土交通省「手づくり郷土ふるさと賞大賞部門」のグランプリなど、いくつかの賞を受賞しています。

## 取組の課題と期待

20年以上続く活動の中で、ボランティアの高齢化や人手不足、運営資金となる協賛金の減少といった課題が顕著になってきましたが、新たな展開を模索し、「小樽雪あかりの路」が私たちの進むべき未来を灯すきっかけになることを期待しています。

## 建築士としての関わり

実行委員会の構成メンバーに建築士会小樽支部の会員が入っています。本イベントは、延べ2,000人を超えるボランティアによって支えられていますが、建築士会小樽支部は、メイン会場の一つである手宮線会場を担当し、スノーキャンドルやオブジェなどの製作、夕暮れ時からロウソクにあかりを灯し、来場者には屋台で温かい食べ物や飲み物を提供するといったおもてなしを行っています。



URL

QRコード

<http://yukiakarinomichi.org>

